

# 昭和はじめの附属幼稚園と幼児教育界



堀 七 藏

一

様に感じた者は、女高師内外に少なくなかったようであり、私自身としても大いに覚悟するところがあった。

私は大正十三年十二月二十一日、東京女子高等師範学校附属幼稚園主事を命ぜられた。それは、附属小学校主事北沢種一が二カ年間の在外研究員として、英吉利、独逸などの留学を終えて、大正十三年十二月帰朝したので、私の附属小学校主事代理がお役ご免となった。そして、一方附属高等女学校主事藤井利譽が大正十三年五月、女高師教授を辞職して東京市教育局に転出し、倉橋惣三附属幼稚園主事が、そのままで附属高女主事になっていたので、大正十三年十二月、倉橋教授は附属高女主事のみとなり、私が幼稚園主事となった。それで、茨木校長の下に、倉橋高女主事、北沢小学校主事、堀幼稚園主事となったわけである。当時、理科出身の私が幼稚園主事となったことを異

二

私が主事となったときには、附属幼稚園は仮園舎で、第一部（同年齢の幼児のみを以て組を編成）も、第二部（年齢の異なる幼児を相混じて組を編成）も、同一の建物であった。すなわち、大正十二年九月一日の大震災で、第一部の園舎も、第二部の園舎も悉く焼失し、幼稚園の備品一切を焼失しているのみでなく、幼稚園の歴史を語るものは、悉く焼失している。幸にして、小西信八（明治十三年九月より明治二十三年四月まで幼稚園監事）先生が雙啞学校長で健在であったから、たびたび訪問して、幼稚園の歴史を語る諸種の資料を寄附して貰うことが

できた。また、幼稚園開設当時の保姆、豊田英雄女史が水戸に健在であり、また、明治十一年、大阪府の命により東京女子師範学校附属幼稚園へ保姆見習として留学した氏原銀女史が、その令妹膳貞親子女史（大阪保育界に四十年間尽力せし人）と共に、熱海に閑居せられ、また、明治十八年七月東京女子師範学校小学師範科を卒業して、多年附属幼稚園保姆として勤務せられた下田たづ女史、明治二十年三月小学師範科を卒業して、神戸の保育界を牛耳っている望月くに女史、明治二十七年三月、高等師範科を卒業し、多年附属幼稚園保姆として勤務せられた雨森銅女史、明治四十一年三月、高等師範学校理科卒で幼稚園保姆を多年勤められていた野間トヨ女史などから、いろいろ参考となる助言を受けた。更に、倉橋前主事は勿論、明治四十五年三月、東京女高師理科卒業の坂内ミツ、大正五年三月東京女高師技芸科第二部卒業の及川ふみ、大正六年三月文科第一部卒業の新庄よしこなどが、現在幼稚園保姆として勤務中であるから、是等、幼稚園保育の諸先輩とよく相談して、幼稚園主事として職務の遂行に当った。

### 三

まず、明治三十八年より東京女高師に開設せられていた保育実習科の主任となって、大正十四年三月、山村きよ、徳久孝、

岸田静子、国木田みどり、床次夏など、十数名の保育実習科生を卒業させ、入学者の定員増加をはかり、全国幼稚園数の増加に伴って優良なる保姆の養成供給に努めた。

また、明治二十九年四月二十一日（フレーベルの第百十四回の誕生日）発会式を挙行したフレーベル会が、大正七年十月の総会において、日本幼稚園協会となり、その機関雑誌「婦人子ども」は、「幼児の教育」と改題して、毎月発行せられていたが、大正十二年九月一日の大震災火災のため、ほとんど開店休業の状態となっていた。

私は幼稚園主事に就任すると共に、日本幼稚園協会主幹となり、その会の活動を開始し、「幼児の教育」の発行に努力した。まず、日本幼稚園協会員の名簿の整理をなし、「幼児の教育」の編集、印刷発行等、諸般の事務を附属幼稚園において、保姆諸君の協力の下に実行した。

かくて、大正十四年十一月二十九日、東京女高師開校五十年記念式典が挙行せられ、皇后陛下、行啓あらせられ、令旨を賜った。そして校長の御先導で、各陳列室を御巡覧あらせられた。いずれの室においても、興味深くみそなわせられたが、わけて、幼稚園陳列室においては、御在園当時（明治二十二年頃）の幼児の写真、成績品などに昔をしのばせられたように拝察された。

#### 四

大正十五年四月二十一日、時恰もフレールの誕生日という記念すべき日に、勅令第七十四号を以って幼稚園令、文部省令第十七号を以って幼稚園令施行規則が公布せられた。この以前にも、文部省令あるいは文部省達として、たびたびの発令があって、中でも主なのは、明治三十三年八月小学校令の中に、幼稚園に關する規程を定められたが、いずれも、幼稚園法令として独立したものではなかった。それで、幼稚園関係者の待望久しき、独立した幼稚園令及び幼稚園令施行規則が公布せられたのである。そして、従来、保育課程として、「遊嬉、唱歌、談話、手技」の四項目が定められていたが、幼稚園令施行規則第二条で、「幼稚園ノ保育項目ハ、遊戲、唱歌、觀察、談話、手技等トス」と、五項目が定められた。ここに新しく觀察が加わったことは、われわれが林博太郎伯爵の主催せる理科教育研究会で、多年要望せる一端が実現せられたものであった。それで、私は林伯爵の推挙により自費で、文部省在外研究員として、附屬幼稚園主事現職のまま、大正十五年四月二十六日、欧米留学の途にのぼった。

そして、私は理科教育の研究を目標として欧米の教育を視察すると共に、幼稚園教育も出来るだけ多く、またよく研究する

為、イギリスを始め、ベルギー、オランダ、ドイツ、スウェーデン、ノルウェー、デンマーク、オーストリア、チェコスロヴァキア、イタリア、スイス、フランス、アメリカなどの視察を終えて、昭和二年四月十四日、約一か年ぶりで無事帰朝した。

#### 五

私の留守中、倉橋附屬高女主事は、辞令なしで、幼稚園主事の代理をしておられ、茨木校長排斥の騒動に巻き込まれ、一方ならぬ苦勞をせられた。それで、昭和二年三月、倉橋高女主事は、茨木校長と交替で東京女高師校長になられた吉岡郷甫氏に對し、附屬高等女学校主事の辞表を提出して、單に教育学担当教授となられた。したがって、私が幼稚園主事として活動するとき、大小となく、倉橋教授に相談したので、恰も二人の幼稚園主事がある形となった。すなわち、文科出身のベテラン前主事と理科出身の新米主事とが提携協力して、幼稚園令による附屬幼稚園の経営に當り、且つ、昭和はじめの幼児教育界を指導するわけである。

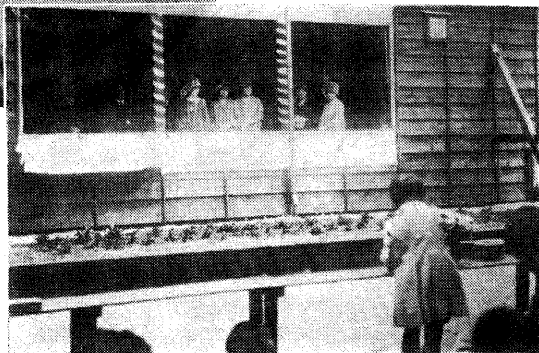
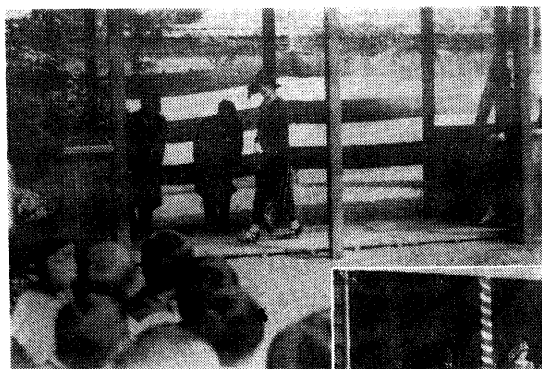
#### 六

附屬幼稚園はバラック園舎であり、従来の保育用具は皆無となったから、一切を新に施設し、保育の實際を一新した。是等

は昭和五年三月、「楽しい幼稚園生活」によって回想したい。

昭和五年三月二十七日  
日麗かな春の日

皇后陛下には東京女子  
高等師範学校に行啓あ



らせられたのであります。この日

陛下には東京女子高等師範学校生徒児童の講堂演習を台覧あらせられて後、玉歩を附属幼稚園に運ばせられ、

幼児達の楽しい幼稚園生活の有様を一々長時間にわたって御巡覧遊ばされましたことは誠に無上の光栄であります。更に「幼児の生活」の写真アルバム等を奉献いたしましたことは光栄の上の光栄であります。それで、この「幼児の生活」の写真に有難き行啓を御迎へ申上げた写真を加へ楽しい幼稚園生活として出来上ったのがこのアルバムです。このささやかなアルバムでも光栄ある楽しい幼稚園生活を永遠に記念することとなりましょう。

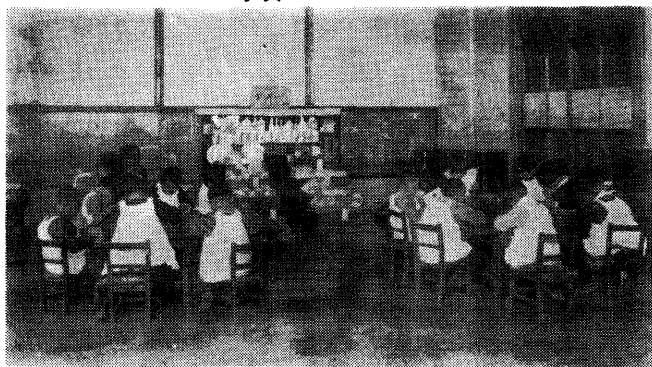
#### 幼児の生活

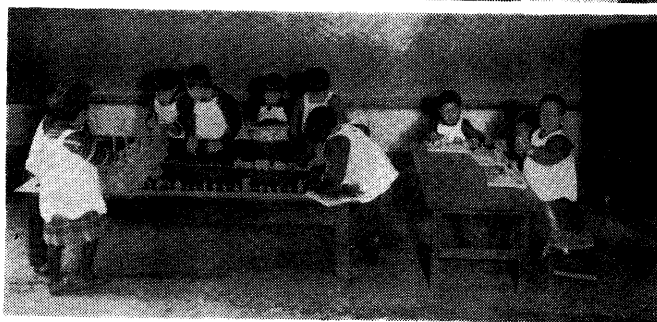
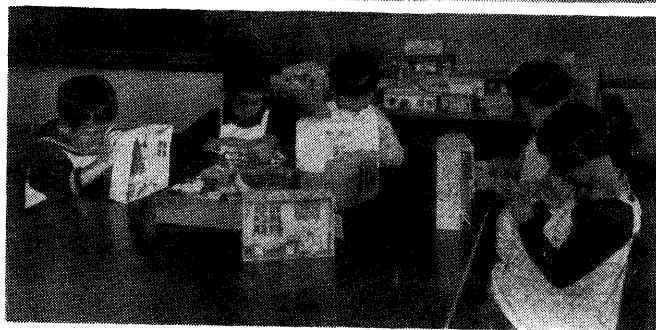
(写真解説)

幼児の生活は、自発の活動と、多面の興味とに生きています。その生活を純真のままに發揮せしめ、片寄りなく充実せしめるのが、幼稚園の一日です。

一、八百屋遊び 新

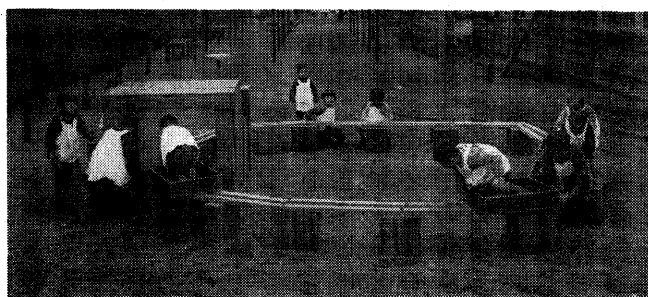
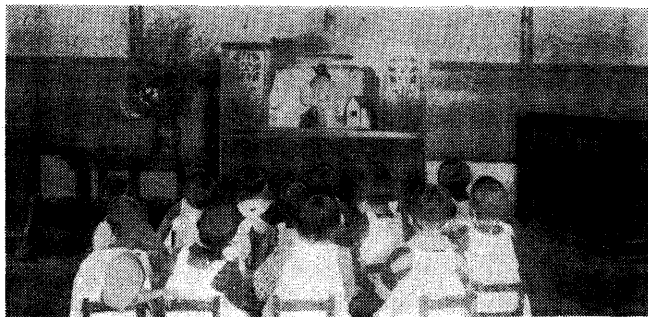
写真 1





保育法中の所謂「目的保育」の一こまであります。  
二、粘土製作 いかにも無造作に製作し、如何にも無造作に  
自己の表現力を楽しんでいる小さな原始芸術家の、そのこん  
こんとして尽きない製作的喜びの無限には、全く驚嘆の外あ  
りません。

三、箱の家 平常の観察と結びつけて、おのずから多分の社  
会興味を含ませることの出来る、新しい製作遊戯です。  
四、砂箱 大人の箱庭、老人の盆景と全然ちがって、現代の  
お茶の水の幼児が作った砂箱には壮大美と現実美との美事な  
総合があります。



五、床上積木 蜜柑箱を改造したオチャノミツ駅には、切符売場と改札口が忘れずにつけてあります。今、それを起点として、萬世橋方面と水道橋方面とへ、積木の電車線路が起工し始められました。

六、人形芝居 今し、舞台は猿と蟹との対話の最中。

七、相撲 小さい行司の可愛らしい目の光るところ、一切を支配するものはフェアプレーの法則ばかり。

八、大積木 大人は努力の結果を楽しみ、子どもは努力そのものを楽しむ。

九、かごめ のどかな歌の声と、小砂利を踏む軽い靴の音

が、いつまでもいつまでも続きます。

一〇、おままごと 丁寧なお嬢様とお行儀のいいお客様、うっとりと思像の中に遊ぶ幼児達の世界は、いつでも明るく笑っています。

一一、丸鬼 溢れ漲る元気に方向を与え、法則を設けて、そ



の活動満足が一倍深められさえすればいいのです。

一二、杵登り 自ら攀じて高きに登ることの愉快は、今日の都会の子どもに封鎖せられた愉快であります。それを補う為に工夫せられたのが、この新しい遊具、「杵登り」(ジャングルジム)であります。(昭和二年五月堀七藏考案、フレー



七

幼稚園令が公布せられた大正十五年には、幼稚園数は官公私立合せて一、〇六四、昭和二年には、一、一八二、昭和三年には、一、二九一と、年々非常な増加の態勢にあった。しかも、保育項目に、新に加わった「観察」の指導に悩むものが少なくなかった。そこで、私は、保育実習科における「自然の観察」を担当し、大岩金助教授に園芸実習を、また、「手技」指導の実力養成のため、手工を山形寛教諭、図画を及川教諭に、更に、遊戯は新婦朝の三浦ヒロ助教授に担当させた。また、「幼児の教育」誌上は勿論、日本幼稚園協会主催の夏季講習会等に於て、欧米諸国における幼稚園教育の実際を紹介し、保育項目の観察指導について講演した。とくに、昭和二年以来、日本幼稚園協会主催夏季講習会には、東京府立第六高女教諭戸倉ハル氏を起用して、幼稚園遊戯に新風導入を図った。また、附属幼稚園の本建築の設計立案し、文部省建築課の採用するところとなった。かくて、昭和五年十一月十五日、吉岡校長より、「君は理科出身の幼稚園主事として十分勤めたから、今度は附属小学校主事となれ」との命令を受けた。そして、倉橋惣三氏は再び幼稚園主事に就任せられたのである。

昭和5年4月 附属幼稚園55年記念

上段左より 白根美智子・神原キク・及川ふみ・倉橋惣三・土川五郎・堀 七蔵・菊池フジノ・徳久 孝・新庄よしこ  
下段左より 相賀ヨシ・下田多津・氏原 銀・豊田英雄・大久保介寿・膳真規子・雨森 剣

